

2025 年度有功賞候補者推薦について

日本分析化学会は、毎年、多年にわたって分析の実務に従事した方々や、分析に欠くべからざる機械、器具、試薬などの製造等の実務に従事した方々を表彰して「有功賞」を贈呈してまいりました。

本年も下記の有功賞規程により 2025 年度有功賞候補者を募集します。各関係機関におかれましては、適任者がおられましたら 1 名（維持会員の場合は 1 口に付き 1 名）を推薦くださいますようお願い申し上げます。

『有功賞規程』

第 1 条 本会に有功賞を設け、多年にわたり分析の実務に従事し、または分析に欠くべからざる機械、器具ならびに試薬などの製造等の実務に従事して功労のあった者に、これを贈呈する。

第 2 条 有功賞は、賞記ならびに賞牌とし、年会において贈呈する。

第 3 条 会長は、毎年会誌「ぶんせき」1 号に有功賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。

第 4 条 有功賞候補者の推薦者は、維持会員代表者、公益会員代表者および支部長とする。

(1) 維持会員代表者および公益会員代表者は、その機関に所属する者を推薦することができる。

(2) 支部長は、維持会員および公益会員に所属しない会員歴 5 年以上の正会員を推薦することができる。

第 5 条 前条によって推薦される者は、受賞する年の 1 月 1 日現在において満 50 歳以上であり、かつ休職期間を除いて満 25 年以上第 1 条の実務に従事している者とする。

第 6 条 候補者の推薦に際しては、次の (1) ~ (3) に規定する書類正、副各 1 通を 4 月 30 日までに本会に提出するものとする。

(1) 推薦書 (2) 推薦理由書 (3) 被推薦者履歴書（いずれも本会所定の用紙に記入すること）

第 7 条 有功賞候補者の選考は、有功賞審査委員会において行う。

審査委員は、理事会が本会会員中より 11 名を選考し、会長がこれを委嘱する。

委員長は、委員の互選による。

(以下省略)

☆

☆

1) 2025 年度有功賞授賞式は、9 月 25 日（木）第 74 年会（札幌）において行う予定です。

2) 被推薦者の学歴制限はありませんが、被推薦者は本年 1 月 1 日現在において第 1 条の実務に従事されていることが必要ですので、ご注意ください（上記第 5 条）。

3) 有功賞候補者推薦書の維持会員代表者氏名は、本会に登録されている代表者氏名を記入してください（代表者氏名が異なる場合は返却します）。

4) 推薦理由書の所属部課係名、実務内容ならびに期間は、できるだけ詳細に記入してください。

5) 推薦書類（推薦書、被推薦者履歴書、推薦理由書：本会所定の用紙）は、正 1 通、副 1 通（コピーでも可）を下記期限までに提出してください。

6) 推薦期限：4 月 30 日（郵送の場合は、当日の消印のあるものまで受理します）

7) 推薦書類提出先：〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号
公益社団法人日本分析化学会有功賞係（メールでの送信は shomu@jsac.or.jp）

8) 所定の書類を入用の場合は、<https://www.jsac.jp/applications/> からダウンロードしてください。

上本先生受賞記念報告

上本道久明星大学教授が、令和6年度産業標準化事業表彰において経済産業大臣表彰を受賞されました。

上本先生は、長年にわたるJISやISOなどの標準化活動が産業標準化業績として認められ、表彰されました。さらに、日本分析化学会において標準物質委員会委員長として、10年以上活躍され、標準物質開発を行ってきた実績も、功績の1つになっています。最近ではマグネシウム標準物質の開発を行いました。

上本先生ご自身の名誉はもちろん、日本分析化学会においても名誉なことです。

・下記に経済産業省の令和6年度産業標準化事業表彰の功績紹介PDFが載っています。

<https://www.meti.go.jp/press/2024/10/20241007003/20241007003-2r.pdf>

第2回分析士会特別講演会・見学会

主催 (公社)日本分析化学会・分析士会
協賛 (公社)日本分析化学会・LC研究懇談会
後援 LCシニアクラブ

期日 2025年2月6日(木)

会場 ブルカージャパン(株)本社(横浜営業所)〔神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-9、電話：045-522-7700、交通：JR京浜東北線・京浜急行線「新子安」駅より徒歩8分

https://www.brucker.com/ja/about/our-business-groups/_jcr_content/root/contentpar/threecolumns/contentpar-1/calltoaction.download-asset.pdf/links/item0/Map_Yokohama.pdf

対象者 分析士および分析士認証試験の受験を考えておられる方。分析士資格をお持ちでない方の参加も歓迎いたします。なお、見学会の参加により、分析士認証試験受験が義務づけられることはありません。分析士の方との情報交換の場としてご活用ください。

スケジュール

13.00～13.30 受付

司会：分析士会見学会小委員長 榎本幹司(栗田工業(株))

13.30～13.35 開会挨拶

分析士会会長(東京理科大学)
中村 洋

13.35～13.55

講演1「会社概要及び最新卓上型MALDI-TOF/TOF/MSneoflexの御紹介」

(ブルカージャパン(株)ダルトニクス事業部)
志村信之

13.55～14.40

講演2「timsTOFシリーズを用いた最新オミクスソリューションの御紹介」

(ブルカージャパン(株)ダルトニクス事業部)
斐澤 崇, 中林 亮

14.40～15.25

講演3「質量分析を用いたバイオ医薬品及び核酸医薬品の特性解析」

(株)東レリサーチセンター研究部門兼総合企画室
竹澤正明

15.25～15.35 休憩

15.35～16.35 施設見学

16.35～16.45 休憩、記念撮影

17.00～19.00 情報交換会(新子安駅付近)

19.00 解散

参加費 5,000円(税込み10%)。

定員 20名(定員になり次第、締め切らせていただきます)。

参加方法

- 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、メールアドレス、勤務先、電話番号、などを明記のうえ、お申込みください。参加者名と振込者名が違う場合は、参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明記してください。
- お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス宛に「第2回分析士会特別講演会・見学会(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、問合せ先までご連絡ください。
- 申込受付メールを受領後、必ず期限内に参加費の納入を行ってください。期限内に参加費納入が確認できない場合、参加申込みを無効としますので、十分ご注意ください。いったん納入された参加費は、返金いたしません。なお、請求書の発行はいたしておりません。

申込期限 2025年1月24日(金)(入金締切時刻：15時)

申込先 <https://forms.gle/G816FFYxUxHBXA5o6>

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)0802349口座名義：シヤ)ニホンブンセキカガクカイ〔公益社団法人日本分析化学会・LC研究懇談会〕

問合せ先 (公社)日本分析化学会・LC研究懇談会
〔E-mail：nakamura@jsac.or.jp〕

第44回分析化学における不確かさ研修プログラム

—受講者募集—

主催 日本電気計器検定所、(公社)日本分析化学会

測定結果の信頼性の指標としての不確かさの評価がますます重要となってきています。日本分析化学会においてもエキスパートワークショップやセミナー等によりその普及と教育に努めてきました。

また、日本電気計器検定所(JEMIC)は、「計量標準等トレーサビリティ導入に関する標準化調査研究委員会」と「計測標準フォーラム人材育成WG」が共同で開発した不確かさ研修プログラムにより不確かさの研修を実施してきました。

日本電気計器検定所と日本分析化学会は、これらの不確かさ研修を参考に2006年、「楽しく・簡単に・解かり易く」をテーマとして、不確かさの計算が分かりやすく理解できるよう演習を多く取り入れた「分析化学における不確かさ研修プログラム」(2日間コース)を開発しました。

この研修では、

- ・受講者1人1人が理解することを最優先に考えたセミナー
- ・“楽しく簡単に解かり易く”不確かさの計算方法を解説
- ・多くの演習問題を解くことで講義内容を十分理解できる
- ・複数の講師が演習問題を通して、各受講者の理解のお手伝いをする

ことを特徴としています。講師が一方的に説明や講義を行うのではなく、受講者の理解度を確認しながら対話方式で進めていきます。

本セミナーはハイブリッド型で開催しますので、オンライン参加も可能です。遠方のお客様もお気軽にご参加ください。

ハイブリッド型の詳細は、日本電気計器検定所のホームページをご覧ください。

https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html

期日 2025年3月6日(木)・7日(金)

会場 日本電気計器検定所本社〔東京都港区芝浦4-15-7、電

お知らせ

話：03-3451-1205、交通：JR「田町」駅芝浦口（東口）から徒歩約13分または都営浅草線・都営三田線「三田」駅A4（JR田町駅方面）出口から徒歩約15分

https://www.jemic.go.jp/kihon/m_honsha.html

対象者 不確かさの計算方法を初歩から学びたい方・不確かさの計算方法を社内教育等の参考にしたい方

講義内容

第1日（9.30～16.30）

1. インTRODクシヨ
2. 演習：温度の測定
3. 不確かさとは何か？（不確かさの概要や必要性など）
4. 用語について1（JIS K 0211:2013 分析化学用語（基礎部門）の説明）
5. 不確かさ評価の概要（タイプAとタイプBの不確かさの違いなど）
6. タイプAの不確かさ評価（タイプAの標準不確かさの求め方）
7. 演習：タイプAの不確かさ評価（タイプAの標準不確かさを求める演習）
8. 確率分布について1（タイプBの評価に用いられるさまざまな確率分布について）
9. タイプBの不確かさ評価（タイプBとしてどのような不確かさの要因があるかと具体的な数値化の説明）
10. 演習：タイプBの不確かさの要因（タイプBの要因を考察するグループ演習）
11. 確率分布について2（確率分布に応じた除数の説明）

第2日（9.30～16.30）

《初日のおさらい》

12. 用語について2（不確かさの評価/計算に必要な用語の説明）
13. 不確かさの合成と拡張（タイプAの標準不確かさとタイプBとして評価した不確かさの合成とその拡張の説明）
14. 演習：不確かさの合成と拡張（合成標準不確かさと拡張不確かさを求める演習）
15. 実際の不確かさ評価の事例紹介（水道水中のナトリウムの測定）
16. 演習：間違い探し
17. 総合演習：拡張不確かさまでの計算
18. 不確かさの利用について（ILACの示す不確かさを考慮した適合性表明の指針の説明と実際に適合性表明に不確かさを用いている例と技能試験の紹介）
19. まとめ
20. 確認テスト

募集定員 24名（定員に達し次第、締め切ります）

参加方法 会場参加またはオンライン参加のいずれかを選択できます。

申込締切 2025年2月27日（木）

受講料 会員64,900円（日本分析化学会会員、JEMIC計測サークル会員）、会員外75,900円

※テキスト代、消費税を含みます。

受講証明書の発行 受講者には「分析化学における不確かさ研修プログラム」を受講し、講習を受けたことの受講証明書を主催団体から発行します。

合格証明書の発行 確認テスト合格者には、日本電気計器検定所から合格証明書を発行します。

申込方法 日本電気計器検定所のホームページ（https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html）から「分析化学における不確かさ研修プログラム」用の受講申込書をダウンロードし、必要事項を入力の上、E-mailに添付してお申し込みください。なお、電話での申込は受け付けません。

送金方法 受講申込みをいただきますと、日本電気計器検定所から受講票と請求書をお送りしますので、指定口座に受講料

をお振込みください。振込手数料は貴方でご負担ください。なお、受講料の返金はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

個人情報 本セミナーの受講申込みにより取得したお客様の個人情報は、本セミナーに係る連絡に利用するほか、次の目的のために利用することがあります。なお、お客様のお申出により、これらの取扱いを中止させることができます。① JEMIC計測技術セミナーに関するお知らせ、②各種校正試験業務、検定業務、基準器検査業務等に関するお知らせ、③ 定期刊行物の発送、購読期限及び会員の集いに関するお知らせ

喫煙に関するお願い 日本電気計器検定所では、健康増進法「受動喫煙の防止」の趣旨に従い、全館禁煙となっておりますので、ご了承ください。

申込・問合せ 〒108-0023 東京都港区芝浦4-15-7 日本電気計器検定所JEMIC計測技術セミナー事務局（担当：長谷川）〔電話：03-3451-1205、E-mail：kosyukai-ky@jemic.go.jp〕

山口地区講演会

主催 日本分析化学会中国四国支部

共催 山口大学研究推進体「先端的な計測・分析機器基盤技術の創出」・山口大学理学部

期日 2025年1月24日（金）15.00～16.00

会場 山口大学人文学部大講義室（山口市吉田1677-1、交通：JR山口線「湯田温泉」駅下車、徒歩30分）

講演

「連続生産プロセスのための小型リアクター内流動解析」

（慶應義塾大学）藤岡沙都子

参加費 無料

連絡先 〒753-8511 山口市吉田1677-1 教育・学生支援機構教育支援センター 藤原 勇〔電話・FAX：083-933-5137、E-mail：fuji@yamaguchi-u.ac.jp〕

第404回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催（公社）日本分析化学会・液体クロマトグラフィー（LC）研究懇談会

後援（公社）日本薬学会（申請中）、（公社）日本化学会、（公社）日本農芸化学会、（公社）日本分析化学会

生薬および生薬から構成される漢方は多くの成分が含まれており、その定性・定量にはHPLC分析が大きな役割を果たしています。本例会では、生薬分析に用いられる前処理やカラムについての基礎知識および実際の分析例から応用例についてご講演いただきます。

期日 2025年2月19日（水）13.00～17.00

会場 ㈱日立ハイテクサイエンス サイエンスソリューションラボ東京〔東京都中央区新富2-15-5 RBM築地ビル、交通：東京メトロ有楽町線「新富町」駅より徒歩1分（5番出口利用）、東京メトロ日比谷線「築地」駅より徒歩4分（4番出口利用）、JR京葉線、東京メトロ日比谷線「八丁堀」駅より徒歩8分（A3出口利用）

<https://www.google.com/maps/search/?api=1&query=35.671216%2C139.775152>

講演主題

生薬・漢方におけるHPLC分析～基礎から応用まで～

講演

講演主題概説（オーガナイザー）

(13.00~13.05)

(株)太田胃散 濱崎保則

(LC分析士二段, LC/MS分析士初段)

1. 生薬分析について—概論—

(13.05~13.30)

(株)太田胃散 濱崎保則

(LC分析士二段, LC/MS分析士初段)

2. 複雑なマトリクスを有する試料を分析するための前処理方法

(13.30~13.55)

(ジーエルサイエンス(株) 太田茂徳

(LC分析士二段)

3. 物理的・化学的特性に基づいたカラム選択

(13.55~14.20)

(日本ウォーターズ(株) 島崎裕紀

(LC分析士三段, LC/MS分析士二段)

4. 生薬分析の実例—ニガキについて—

(14.20~14.45)

(株)太田胃散 若林宏治

(LC分析士初段取得予定)

休憩 (14.45~15.00)

5. LC-MS/MSを用いた漢方薬の薬物動態研究

(15.00~15.30)

(株)ツムラ 瀧山幹奈

(LC分析士初段受験予定)

6. 生薬中不純物分析の実例—マイコトキシンについて—

(15.30~16.00)

(クラシエ(株) 吉田翔太

(LC分析士初段受験予定)

7. シングル四重極LC-MSによる生薬・漢方関連のアプリケーション事例のご紹介

(16.00~16.30)

(株)島津製作所 服部考成

(LC/MS分析士初段)

8. 総括「生薬・漢方におけるHPLC分析」

(16.30~17.00)

(東京理科大学) 中村 洋

(LCマイスター, LC/MSマイスター)

参加費 ①学生：1,000円, ②LC懇・個人会員：2,000円, ③LC懇・団体会員：3,000円, ④後援学会・個人会員：4,000円, ⑤後援学会・団体会員：4,500円, ⑥その他：5,000円。参加申込締切後の受付はできませんので、ご了承ください。

情報交換会 終了後、講師を囲んで情報交換会を開催します(会費5,000円)。参加申込締切後のご参加はできませんので、ご了承ください。

申込締切日 2月12日(水)(入金締切時刻：15時まで)

申込方法

- 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先(電話番号)、LC研究懇談会・個人会員、協賛学会・個人会員、その他の別および情報交換会参加の有無を明記のうえ、お申込みください。なお、参加者名と振込者名が違う場合は、参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明記してください。
- お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス欄に「第404回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、世話人までお問い合わせください。
- 申込み受付のメールを受領後、必ず期限内に研究懇談会参加費、情報交換会費の納入を行ってください。期限内に納入が確認できない場合、お申込みを無効とし参加URLを発行しませんので、十分ご注意ください。当日払いは受け付けません。なお、いったん納入された参加費は、返金いたしません。

- 参加費の納入が確認できた方には、2025年2月13日以降に要旨集をメールにてお送りいたします。必要に応じてプリントアウトしてご参加ください。また、請求書の発行はいたしておりません。

液体クロマトグラフィー研究懇談会(例会)参加費送金時のご注意

例会参加費、情報交換会費を送金される場合、下記を禁止しておりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

- 複数例会の参加費の同時振込
(→例会ごとに振り込んでください)
- 複数参加者の参加費の同時振込
(→参加者ごとに振り込んでください)
- 年会費や他の費用との合算振込
(→費目ごとに振り込んでください)

申込先 <https://forms.gle/HqT4UTGMiRp8Qnf7>

(学生申込者は、所属欄に大学名、学部、学年を記載)

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)1754341、口座名義：シヤ)ニホンブンセキカガクカイ〔公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

問合先 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 (株)太田胃散 濱崎保則
[E-mail : y_hamazaki@ohta-isan.co.jp]

2025年度液体クロマトグラフィー(LC)分析士三段 認証試験実施のお知らせ

標記につき、下記要領で実施する予定ですので、お知らせいたします。

日時 2025年5月8日(木)14時~16時

会場 五反田文化会館〔東京都品川区西五反田1-32-2、交通：JR・都営地下鉄「五反田」駅より徒歩3分。〕

<http://www.gotandabunkakaikan.com/contact.html>

三段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「新しい分析法を開発し、その妥当性確認(Method validation)を計画し、実施できるレベル、当該分析・測定技術に関連する学術的知識に詳しく、経験が深い。」と規格されます。液体クロマトグラフィー分析士においては「HPLCを用いた試験に関連する前処理に関する知識が十分である。与えられた公定法や論文を正確に読みこなし、自らその試験を行うかSOPを作成する事ができる。」ことが求められます。なお、試験問題としては科学ならびに分析化学一般に関する知識を問う内容が約30%含まれます。

受験料 8,800円(合格者は登録料5,500円を別途申し受けます)。入金確認後、受験番号をお知らせします。

受験資格 受験できる方はこれまでに行われた液体クロマトグラフィー分析士二段試験に合格し、登録された方に限ります。

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ(<https://forms.gle/MDK619U7s3k4NPrV6>)にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 4月28日(月)

振込銀行口座 りそな銀行五反田支店普通預金0802349 名義：公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会((シヤ)ニホンブンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィー)。一度お振り込みいただいた受験料は返却しません。万一、コロナ禍等で試験が中止された場合には、次回の受験料を免除します。

問合先 (公社)日本分析化学会・LC研究懇談会・分析士認証専門部会 [E-mail : nakamura@jsac.or.jp]

—以下の各件は本会が共催・協賛・後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

第300回ゴム技術シンポジウム

基礎から応用技術で見るゴムのトライボロジーⅥ

主催 (一社)日本ゴム協会トライボロジー研究分科会
期日 2025年1月15日(水)
会場 東京都港区元赤坂1-5-26 東部ビル5階
ホームページ https://www.srij.or.jp/newsite/schedule/view_detail.php?gno=6413&keepThis=true&TB_iframe=true&height=550&width=680
連絡先 〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-26 東部ビル5階 (一社)日本ゴム協会 研究部会 高田顕弘
〔電話：03-3401-2957, E-mail: kenkyuubukai@srij.or.jp〕

第42回コロイド界面技術シンポジウム

“温故知新；経験を知り新たな製剤開発への展開を探る”

主催 日本化学会 コロイドおよび界面化学部会
期日 2025年1月23日(木)・24日(金)
会場 同志社東京オフィス
ホームページ <https://colloid.csj.jp/202411/42nd-techsympo/>
連絡先 日本化学会 コロイドおよび界面化学部会
〔E-mail: jigyokukaku_01@colloid.csj.jp〕

表面科学技術研究会 2025

半導体産業の現状と課題

—これからの日本を支える半導体技術—

主催 (一社)表面技術協会関西支部, (公社)日本表面真空学会関西支部
期日 2025年1月31日(金)
会場 大阪産業技術研究所 森之宮センター
ホームページ <https://www.jvss.jp/chapter/kansai/hyoumengijutsu2025/>
連絡先 〒604-8511 京都府京都市中京区西ノ京桑原町1 (公社)日本表面真空学会関西支部 (株)島津製作所分析計測事業部 表面科学技術研究会担当
〔電話：075-823-1794, E-mail: hirade@shimadzu.co.jp〕

プラズマ分光分析研究会第124回講演会

現場で活躍するプラズマ分光分析

主催 プラズマ分光分析研究会
期日 2025年3月21日(金)
会場 東京都産業技術研究センターおよびオンライン
ホームページ <https://plasma-dg.jp/seminar/124/program124.html>
連絡先 〒192-0392 東京都八王子市堀之内1432-1 東京薬科大学生命科学部 分子生命科学科生命分析化学研究室内プラズマ分光分析研究会事務局 大関杏子

〔電話：042-816-3001, E-mail: office@plasma-dg.jp〕

シンポジウム「モレキュラー・キラリティー 2025」

主催 Molecular Chirality Research Organization (MCRO)
期日 2025年5月16日(金)・17日(土)
会場 名古屋大学野依記念学術交流館
ホームページ <https://ladpoly.chembio.nagoya-u.ac.jp/mc2025/>
連絡先 〒464-8603 名古屋市中種区不老町 名古屋大学大学院工学研究科 有機・高分子化学専攻 実行委員長兼総務担当 井改知幸〔電話：052-789-4667, E-mail: mc2025@chembio.nagoya-u.ac.jp〕

「分析化学」特集

“拡がる！分析化学と溶液化学の境界”
の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、溶液反応化学研究懇談会と共同で「拡がる！分析化学と溶液化学の境界」特集を企画しました。溶液化学の研究は、電気化学や錯体化学はもちろんのこと、クラスターや化学反応を解明する分子科学やイオン液体や超臨界流体などの応用が期待されている工学的分野など、多くの分野と密接に関係しています。本特集号では、更なる拡がりを見せている溶液化学と分析化学の境界領域における最新の研究に関する論文の投稿をお待ちしています。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文申込締切：2025年2月21日(金)

特集論文原稿締切：2025年4月18日(金)

初めて書く論文は母語の日本語で！

“第24回初執筆論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、2025年(第74巻)に企画しております第24回「若手研究者の初論文特集」の特集名称を変更し、第24回「初執筆論文特集」として原稿を募集いたします。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

「分析化学」年間特集「環」論文募集

「分析化学」編集委員会

2025年は「環」をテーマとすることと致しました。本特集では「環」をキーワードとして、基礎・応用を含めた分析化学の“最新の知見”はもちろん、総合論文や分析化学総説といった形で現在の分析化学の“研究の背景”についても広く募集し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。国内外、産学官を問わず、「環」にかかわる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。

い。なお、詳細は「分析化学」誌の12号及びホームページをご参照ください。

特集論文原稿締切：2025年4月25日（金）（第3期）

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先は shomu@jsac.or.jp です。原稿の長さには制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日（例：1月号掲載→11月25日締切）となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルを shomu@jsac.or.jp にお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋（共催）

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。（後援又は協賛）
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

【ぶんせき】編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・

機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することいたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会 [E-mail : bunseki@jsac.or.jp]

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式（P：印刷ページ数）（単位：円）
 会員の場合：30,000 + 5,000 × (P - 4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円）
 会員外の場合：40,000 + 5,000 × (P - 4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円）

* 上記に消費税がかかります。